

苗場山麓ジオパーク学術研究実施報告書（鑑文）

平成28年 1月 31日

団体名（所属） 菅沼を考える会

代表者名（氏名） 涌井泰二

1 研究の名称

廃村から再び森へ～菅沼の現状とジオサイトとしての可能性について考える～

2 研究のテーマ

津南町菅沼集落の地形・地質・植生・歴史文化の研究

3 調査・研究等の日程と概要（調査区域や地点・調査方法など）

※これまでの実績と今後の予定

日程	主な調査・研究等の概要
平成27年 5～7月 8～12月	現地予備調査（6回） 研究打ち合わせ（7回）、元住民への聞き取り調査（2回）、現地本調査（7回）、 現地追加調査（16回）
平成28年 1月	研究打ち合わせ（2回）、報告書の作成、提出 (主な経過については報告書に記載)

4 調査・研究結果（概要）

菅沼集落は、標高約630～650mほどの、津南町の中心部から北西方向にあった集落である。昭和48年秋に全住民が移転し、その後は人の立ち入りが激減した。廃村からの年月の経過によって移り変わってきた自然環境を観察できる場所として、菅沼集落にジオサイトの可能性を考えた。

調査の結果、廃村以来、ほとんど手つかずとなった池や湿地、山林などがあり、トンボ類18種が確認され、哺乳類では4種類の痕跡等の確認がされた。鳥類では未確認のものを含め、22種類を記録している。絶滅を危惧される動植物が複数種確認され、ほかにもスナヤツメやチャイロカワモズクといった、その種の分布としては興味深い種が生息していることが確認された。継続的な調査が必要と思われる。

また、貝化石や亜炭を手にとることができる、地学的にも貴重な場所である。

多くの貴重な自然環境を有し、ジオサイトとして大きな価値をもつ場所となると考えられる一方、利用に伴う環境の改変や動植物の無秩序な採取の危険性が生じるなど、保全の面からは課題も多い。また現在でも集落を訪れる元住民もいることなどから一般開放は避けた方がよいと考える。

菅沼の自然の素晴らしさを伝え、どのように保全し、利用をしていくのか、今後の大きな課題である。

※調査・研究結果がわかる資料を添付してください。